九品寺





九品寺「くほんじ」は弘仁元年(810)弘法大師の開基と伝えられ、白河天皇は承暦3年(1079)5月27日皇后の安産を祈って、九品寺の住僧に加持祈祷をさせたところ、皇子が誕生した。そこで阿弥陀堂、五重塔・鐘楼など七堂伽藍を建立されたという。白河天皇は第三皇子覚行法親王を九品寺に入山させ、中興したという。白河天皇は1095年に出家して法王となり、院政をしき、1129年に崩御されたという。そして、覚行法親王は御室仁和寺のして九品寺の中興につくされたという。覚行法親王は御室仁和寺の法親王門跡でもあったが、長治2年(1105)11月18日崩御され、九品寺に祀られたという。中世のころは堂舎僧坊も多くあったが、永正年間の黒田城の森氏と宍人城の小畠氏の争いで焼け、本堂と仁王門だけが残っている。

雷除ケ石



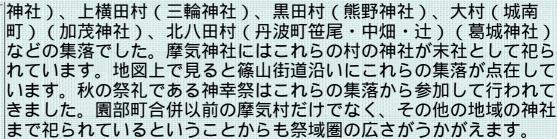
本堂(観音堂)の横に雷除ケ石がある。雷除けの祈願が行われ、霊験あらたかな雷神であるという。戦後九品寺が荒廃していたとき、船阪と大西に同時に落雷があり、九品寺をお祭りしなくなったから雷神の天罰だといわれたほどでした。一時期、九品寺は荒廃していましたが、現住職芝氏の手によってかなり整備され、昔の行事を復興されるなど昔の面影を取り戻しつつあります。九品寺へは国道9号線を河原町で左折し、船阪で左折すると赤い仁王門が見えてきます。京都交通バスでは園部駅西口から八田経由亀岡行きに乗車し、九品寺前で下車して下さい。なお、九品寺と摩気神社の関係は摩気神社の神宮寺が胎金寺という真言宗の寺であり、胎金寺は九品寺の末寺であったことから生じました。

摩気神社



摩気神社はJR園部駅東口からJR西日本バスに乗車し、摩気神社前 で下車し、徒歩で350mほどのところにある神社で社が北向きとい うめずらしい神社です。創建は弥徳天皇神護景雲4年(770)とい われ、式内社名神大社に比定される古い神社です。祭神は「おおみけ つひこのかみ」で「あまのこやねのみこと」の子で別名を「あまのお しくもねのみこと」といいます。「ににぎのみこと」が天下りされた とき、「あまのこやねのみこと」は「あまのおしくもねのみこと」に 「皇孫のみけの水には天津水をささげ」といわれ、歴代の天皇の即位 の大嘗祭には天津水をささげるようになったといいます。それ以来、 「あまのおしくもねのみこと」を「おおみけつひこのかみ」というよ うになったといいます。摩気「まけ」は「みけ」のことで「みけ神 社」が「摩気神社」となったといいます。「みけ」とは神にささげる 食物の意味であります。 江戸時代には園部藩主代々の祈願所となり、 歴代藩主の参拝も多く、社前約300m手前にかかる橋(摩気橋)で 下馬したとされ、この橋を別名馬橋ともいいます。摩気神社は摩気郷 の総氏神とされ、鎮座地の摩気村を中心に篠田村、上新江村、 村(蛭子神社)、半田村(大森神社)、宍人村(菅原神社)、大坪村 (八幡宮)、西山村(八幡宮)、船阪村(八幡宮)、下横田村(若宮



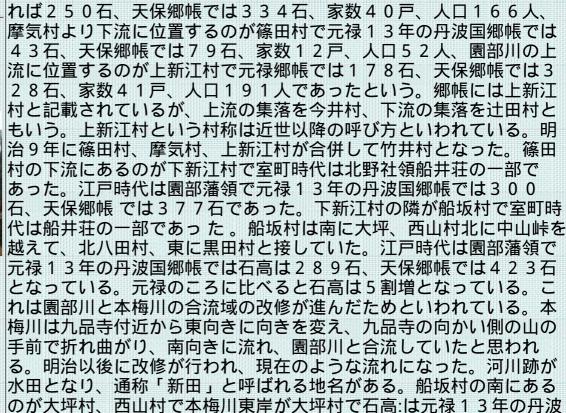


摩気神社は真言宗九品寺の鎮守でもありました。九品寺の末寺胎 金 寺が神宮寺として、胎金寺の社僧によって祀られてきました。摩気神 社の祭礼は春の田植祭(6月5日)旧暦では5月5日に行われ、秋の 祭礼は「神幸祭」といい、10月14日15日にかけて行われていま

す。摩気神社と関わりのあった村について簡単に述べる











国郷帳で154石、天保郷帳で214石、家数は29戸、人口110人、西山村は元禄郷帳で石高は154石、天保245石、家数27戸、人口137人、この2村は明治9年に合併して、大西村となった。大西村の南に位置するのが宍人村で室町時代は北野社領船井荘の一部江戸時代には園部藩領であった。石高は元禄郷帳では207石、天保郷帳では485石、家数は80戸、人口350となっている。半田村は明治9年に南半田村、東半田村、西半田村が合併して成立したもので、南半田村は亀山藩領、東西半田村は園部藩領であった。園部川の支流半田川の東岸にあるのが東半田村、西岸の上流部にあるのが南半田村、下流部にあるのが西半田村であった。以上の村々が旧摩気村における摩気神社と関わりのあった村であった。園部町と合併以前の摩気村はこれらの村以外に口司村、口人村があるがこれらの2村の神社は南大谷の藪田神社の末社であった。